



学校だより

やまゆり



2018年5月号
平成30年5月1日

横浜市立大口台小学校

神奈川県大口仲町460

<http://www.educity.yokohama.lg.jp/school/es/oguchidai/>

清々しい やさしい風を頬に受けて

校長 田川 齊史

街路のハナミズキやツツジの花が一斉に咲き始め、新緑が目まぶしい5月となりました。休み時間の運動場では、1年生が広い運動場に戸惑いながらも上級生の声かけを受けながら楽しく過ごしています。



子どもたちは 入学・進級を喜び新たな気持ちで頑張っています！

6年生と1年生が同じ昇降口になりました。登校途中、お世話をしながら教室まで連れていく姿が高学年としての意識を高めています。1年生を迎える会では、体の大きな6年生が腰をかがめて1年生を優しくリードしていました。朝の時間、教室に赴き、1年生の様子を心配そうに見守ったり、カバンや持ち物の整理を手伝ったりしています。最高学年の自覚、大口台小学校の「大黒柱」として動いています。全校遠足に向けての取組でも全校をリードしてくれることでしょう。

防災拠点としての学校の役割

2年前の4月14日(木)深夜、熊本県を中心に発生した地震。復興の知らせは届いていますが、耶馬溪の大規模山崩れなど自然災害は予告もなく襲ってきます。改めて、被災された方々、関係された方々にお見舞い申し上げます。地震という自然の力の大きさにあらためて驚異を感じるとともにその自然の力と向き合って生きていかなければならない人の営みについて考えざるを得ませんでした。被害やその驚異による影響を少なくする努力が教育の中にも求められると感じています。当時、継続する余震や被害状況の報道が続く中、1週間後には、避難所となった学校で、食料を配ったり、お年寄りに声をかけ、肩をたたいたりする子どもたちの姿が映りました。子どもたち自身つらい状況にあっても、何とか力になりたいという姿です。困難な状況であってもお互いが支え合って生きる、こうした子どもたちを少しでも多く育てていきたいと思いました。

子どもの支えとなる存在

以前、北原照久さんのお話を聞く機会がありました。北原さんは、ブリキのおもちゃコレクターの第一人者として知られていますし、横浜山手に「ブリキのおもちゃ博物館」を開館し、テレビ番組にも多数出演しています。ご存知の方も多いのではないでしょうか。その中で、少年期～青年期に出会った人の言葉について話題にしていました。北原さんは中学校でぐれてしまい退学処分…。学校からの帰り道、お母さまが、「おまえは悪さをしたけどタバコは吸わなかった。」「おまえは花をよけて、踏まないようにする優しい子なんだから。」とおっしゃって、その言葉に救われたということです。また、なんとか進学した高校では、ある先生に、「君は、(勉強を)やればできるんだな。」と言葉をかけられ、奮起し、卒業時は成績トップで総代となったとのこと。人はまわりの一言で生き方を変えてしまうことを身をもって体験したと話されました。

まわりの大人がやるべきことは、子どもを支え、子どもを勇気付ける言葉を与えることであり、周りと比べることや欠点を指摘することではなく、**子どもの憧れとなる「存在」**でなければならないとおっしゃっていました。

ある歌に、「やれば、できるよ～。できるよ、やれば～」とあります。やらないであきらめることなく、まずはやってみる。そして、夢を実現させる努力をする。大口台の子どもたちがそんなたくましい成長をしていってくれることを願っています。私たち大人(家庭も教師も地域も)は**子どもたちを支える「存在」**として、子どもたちの前に立てるようにしたいものです。今後ともよろしく願います。



学校説明会 5月17日(木)

授業参観、PTA総会とあわせて、平成30年度の学校運営、教育活動計画等についてご説明をいたします。多くの保護者の皆様の出席をお待ちしています。